

---

# ラクダムオンライン

ラクリマ・クリス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラクダムオンライン

### 【Nコード】

N7282F

### 【作者名】

ラクリマ・クリス

### 【あらすじ】

初めて仮想空間を採用したラクダムオンライン。そのゲームに参加することになった、少年のゲーム中での出会いと日常を、  
淡々と……

## ラクダムオンライン(前書き)

初めて投稿します。色々間違えたりすると思いますが、よろしくお  
願いします

## ラクダムオンライン

今まで夢物語に過ぎなかった仮想空間に入るオンラインゲーム。しかし技術の進歩は遂にそれを可能にした。

### 【ラクダムオンライン】

業界初となる仮想空間システムを採用し、莫大な資金を投入した一大プロジェクトである。

情報はある程度出されていたが、詳細は実際にプレイしてからの楽しみとなっていた

その情報の一部はこうなっている

- ・ 仮想空間で感じることは、現実と全く変わりありません。つまり嗅覚や聴覚など全て再現されております
- ・ 画質や音質は現実そのものと、なんら変わりません
- ・ 職業の数は数百種類にも及び、ある程度のレベルになればいつでも変更可能
- ・ モンスターの数はほぼ無限大

試作テスト・ テスト・ テスト・ 正式版と、段階的に人を募集して テストまでは人数制限をしていたが、正式版では人数制限を解放し、誰でもプレイすることが出来るようになった

## ラクダムオンラインにご参加する皆様へ

この度、当社のゲーム【ラクダムオンライン】にご参加いただき、誠にありがとうございます

袋に以下の付属品が、入っているかご確認ください

- ・ラクダムハット……一点
- ・専用ケーブル……一点
- ・専用充電器……一点
- ・専用バッテリー……一点
- ・取り扱い説明書……一点

もし万が一付属品が足りなかった場合、最寄りの店に渡してください。

新品と交換させていただきます

またプレイするにあたり簡単に説明させていただきます

- ・この世界の一日は現実世界の一秒未満となっており、時間を気にせずプレイ出来ますが八十日を目安に、一度ログアウトしてください
- ・ダメージもくまいますが、適度に調節してありますので、現実世界での影響はありません
- ・この世界のルールは現実の法と変わりません。（ただし、ゲーム的な仕様の場合を除く）
- ・この世界はあくまでゲームです。現実と間違われなようお願いします

- ・ステータスなどは手に装着された専用のアイテムで確認出来ます
- ・睡眠や食事を取ることが出来ますが、適切に取らなければ何らかのペナルティーがあります（例：睡眠不足だと命中と回避が落ちます）

ただし、睡眠は五日に一回が適切となっております

・このゲームをプレイして何らかの事件や事故に巻き込まれても、  
当社は一切責任は負いません

その他の細かい仕様や分からないことがありましたら、メニューか  
らヘルプをご覧下さい

それでは皆様【ラクダムオンライン】をお楽しみください

## 第一話「ラクダムオンラインの世界へようこそ！」

『初めまして！ このラクダムオンラインへようこそ！』  
「うわ!？」

機械をセットしログインしてみたら、いきなり顔の間近に人がいた  
『あらら、驚きました?』

「驚くよ！ ログインしたらいきなりだもん……」

驚くも何も最初に見た光景が人の顔で、しかも結構美人な訳で

『細かいことは気にしないでくださいー』

「細かいことつて……。ところでさ、君は誰なの？ いきなり目の前にいたけど」

『私？ このゲームの案内役ですよ。』

「案内役?」

『んー、簡単に言うとゲーム設定の役割みたいな物かな？ 基本的な設定をここでやってから、ラクダムオンラインに行くんですよ』  
「なるほどね」

『でわ、簡単に設定しますのでこれをご覧ください』

と、言われ渡された物はパンフレットに似たようなやつだ

基本設定（顔や髪型、目の色、体型を設定。それ以外は現実世界の姿を反映される）やゲーム設定（ゲーム内の職業、初期装備、自分の名前を設定）を見本表を見ながら設定出来るみたいだ

僕は少し悩んだがこのゲームは自由度も高いので、すぐに決めた。

基本設定は特にいじらず、職業は剣士（装備の幅が広いらしい）に、装備は片剣と盾を選択して名前はルキアにした

「こんな感じでいいのかな?」

『あつ、はい。少しお待ちください』

案内役の彼女はパンフレットを手に取ると、何やら機械で読みとっているようだ。おそらく基本設定やゲーム設定、名前の重複などチェックしているのだろう

「大丈夫です。確認しました」

「あっ、ども」

「でわ、こちらのポータルに入って初期町に飛んでくださいねー」

「ポータル？」

「えーと、説明が難しいので、簡単に言うとワープみたいなものですよ。スキルでも使われているんですよ。」

「ワープねえ、ありがとう。ここに入ればいいのかな？」

「はい、楽しいラクダムオンラインをお楽しみくださいー」

ポータルの中に入った瞬間瞬時に世界が変わった。そこは初期町「アリカ」だった

## ステータスについて(前書き)

一応ゲームでの設定を書いておきます  
あと一つあります

## ステータスについて

ステータスについて

### ・HP

0になると死亡となる。回復させるには、座るかスキルを使用したり、アイテムを使う。また一部スキルではHPを消費する

### ・MP

スキルや魔法を使うことで消費する。アイテムを使用したり、座ることで回復をする

### ・SP

一部の特殊なスキルや魔法で消費する。また走るためにも必要となり、0になると走ることが出来なくなる。自動的に回復はするが、回復スピードを上げたい時には、

その場に座るかアイテムを使用する

### ・空腹度

一日一回を目安に、食事を取らなければならない

この数値が0になるとHPが徐々に減少していく。回復するためには、宿で食事をする（食事により回復力は変化）かアイテムにより回復する（アイテムより回復量は変化）

レベルアップに応じてステータスポイントを貰うことが出来、プレイヤーは自由に振ることが出来る。ただし、運は装備でしか上げることが出来ない

### ・攻撃

装備している武器の物理ダメージを増加させる。また多少のSPを増加させる

### ・防御

相手から受ける物理ダメージを軽減する。また多少のHPを増加さ

せ、回復スピードを僅かに早める

- ・魔法攻撃

魔法攻撃のダメージを増加させる。また多少のMPを増加させる

- ・魔法防御

相手から受ける魔法ダメージを減らす。またMPの回復スピードを僅かに早める

- ・命中

攻撃成功率を上げる。また魔法もこの影響を受ける。クリティカル率を僅かに上げる

- ・器用さ

扱える武器の種類に影響する。また合成や加工の成功率や、宝箱の開閉率にも影響する

- ・回避

相手の攻撃を避けやすくなる。相手から食らうときのクリティカル率を下げる

- ・幸運

アイテムのドロップの質を上げる。武器や防具、アクセサリーの制作時に付属ボーナスを、より良くする確率が上がる

## インターフェイス関係（前書き）

これでラストです

次から二話目がはじまります

## インターフェイス関係

### インターフェイス

利き腕により異なるが右腕か左腕に装着する機械から、各メニューに入ることが出来る。機械に触れるとプレイヤーの近くに擬似的なウィンドウ（窓）が現れ、タッチすることにより操作をする

### メニュー画面

項目は以下の通りとなっている

#### ・プレイヤー設定

プレイヤーのステータスの確認、ステータスポイントと振り当てをする

#### ・スキル & amp; 魔法設定

スキルや魔法のショートカットを設定する。また威力や消費を確認出来る

#### ・装備設定

プレイヤーの装備の確認や、装備を変更するために使用する

#### ・アイテムボックス

戦闘で取得したアイテムや、購入したアイテムを入れる

#### ・戦闘設定

モンスターのHPを表示させたり、自分のHP、MP、SPを好きな位置に表示させることが出来る

#### ・ギルド

一つの軍団の集まりのことをギルドといい、誰でも作ることが出来る。(100万ドニアで作成)

ここでは、ギルドマスターが副ギルドマスターを指定、チームの加入、チームの脱退などが出来る

#### ・パーティー

狩場などに一緒に狩ることが出来る。パーティー専用の狩場やダンジョンがある

パーティーを作成し、一定時間組んでいると専用経験値を貰える。ある程度溜まると、段階的に色々なパーティー専用スキルが使用出来るようになる

また、パーティーを組むことによってボーナスが貰え、普段貰う経験値よりも若干多くなる。二人から五人までは、一人につき取得経験値が三%、六人の場合は一人につき、取得経験値が五%増える

#### ・フレンドリスト

いつでも連絡が取れるようにするための物

相手の合意とスキルがあれば、フレンドのいる場所に飛ぶことも出来る

#### ・オプション設定

HP、MP、SPなどの表示位置変更や、相手の名前の表示設定、パーティーの表示、ショートカット設定が出来る

#### ・ログアウト

このゲームを終了する時に使用する。戦闘時や戦闘してから10秒以内、またダンジョン内ではログアウト出来ない

## 第二話「アリカにて、クエスト」(前書き)

あけましておめでとつじねいます。

今年も良い年であるように願うばかりです。

## 第二話「アリカにて、クエスト」

「へえー話で聞いてたけど、やっぱりすごいな」

あまり信じてはいなかったが、実際にやってみると技術の進化は素晴らしいと、改めて実感させられる

どのゲームでも、再現出来なかった現実そっくりな風景。まるで、別の世界に迷いこんだような感触に陥るのは、感動すら覚えるほどだ

「うわーやっぱり街の中心地には、人が一杯いるな。結構装備が派手な人もいるし。……最初は、クエストでもやるのかな」

初心者向けに、操作方法や街の施設の案内、そして簡単なクエスト（仕事）を与えられる。勿論、クエストをやるにはレベル制限があるが、種類が豊富なため人気がある

「クエストって何があったかな？」

手に装着された機械からメニューを開きクエストを選択すると以下の内容が表示された

### クエスト

・ブルースライム退治

ブルースライムが異常繁殖して、農作物を食い散らかしている。誰か退治して欲しい

「ブルースライムを三十体退治」

・調合に必要な薬草

ポーションを調合して販売しているが、怪我をしまって必要な薬草が、取りに行けなくなってしまう。誰か、代わりに取ってきて

て貰えないか？

「レッドハーブの葉五枚、ブルーハーブの葉五枚、イエローハーブの葉五枚」

・ゴブリン退治

ゴブリンが、一般市民に危害を与えていると通報があり、我々治安維持隊が退治をしています。数が多く減らないので募集をしています

「ゴブリン二十体退治」

「最初は、こんだけなのかな。まずは、一番弱そうなスライムから、やってみよつと」

ブルースライム退治をクリックすると、クエストの対象マップとやるかどうかの質問が表示された。もちろんやるので、はいをクリック。

「このゲームで、初の狩るモンスターがスライムか。ある意味、定番かな」

まだ慣れてない街だったが、マップの表示が分かりやすく、すぐに対象の場所につくことが出来た。まあ、街から出てすぐ近くにあるから、迷いようも無いんだけど

### 第三話「狩りの準備」

農地のような場所にブルースライムが沢山いる。そいつらは農作物のキャベツや白菜、人参などに群がっている

敵は、自動的に出現するシステムなのでいくら倒しても大丈夫だが、囲まれると危険なのはすぐに理解出来る。しかし、ブルースライム自体はノンアクティブモンスターなので、その心配はない。このゲームでは、敵の状態が簡単に説明すると三種類ある

#### ・ノンアクティブ

こちらから攻撃をしないかぎり、モンスターは攻撃をしない。

#### ・アクティブ

ある程度近づくと、攻撃をしてくる

#### ・グループアクティブ

数が多く群れている、一部のモンスターのみにあり。プレイヤーが攻撃をすると、仲間達が集まり攻撃をする

「まずは、装備の確認からかな」

メニュー画面から、装備の項目を選択する

#### 装備一覧

- ・頭 無し
- ・肩 無し
- ・右手 ボロい剣
- ・左手 木の盾
- ・防具 安物の鎧
- ・背中 無し
- ・足 安物の靴
- ・イヤリング 無し

- ・腕輪一 初心者腕輪
- ・腕輪二 無し

「初期は、こんな装備なのね。装備は店売りと、拾うんだろっね」  
次に、ステータス画面を開く

### ステータス

(右の数字は、元々の数値と装備の数値です)

HP	120
MP	40
SP	20
空腹度	満腹
攻撃	65 (40 + 25)
防御	30 (20 + 10)
魔法攻撃	15 (10 + 5)
魔法防御	20 (5 + 15)
命中	55 (40 + 15)
器用さ	30 (30 + 0)
回避	40 (25 + 15)
幸運	10 (10 + 0)

「なるほどね。やっぱりこのくらいの初期値だよな。剣と盾をどう使うかが、ポイントになりそうかな」

辺りには一面、ブルースライムがいる。そして初の狩りとなる

「初めてだけど大丈夫だな、きっと」

#### 第四話「はじめての狩り」

「攻撃の仕方を確認するために、まず一体倒してみようかな」

ブルースライムの前に立ち、剣を強く握りしめ狙いを定めて斜めに振る。気持ちのいい効果音と同時に、ブルースライムのHPが減少する

「三分の一くらいHPが削れ　　うわ！」

言葉を遮るかのように、ブルースライムの反撃が入る。HPの減り方のみ見ていたので、盾で防ぐことも避けることも出来ず、尻餅をつく形となった

「痛っ！　……すっかり忘れてた。相手が反撃してくることを」

すぐさま、ブルースライムは二発目の攻撃の動きに、入ろうとしていた

「今度は効かないよ！」

うまく攻撃を避け、隙をつき一発。軽く後ろに下がりが間合いを取り、素早く攻撃を加える。そしてブルースライムの反撃を盾で防ぎ、一発。

ブルースライムのHPが無くなり、光に包まれ消えていった。それと同時に、アイテムを手に入れた

「お、何かアイテム手にいれたみたいだ」

アイテム欄を見てみると【ブルースライムの液体】 【空き瓶】が入っていた

「空き瓶……？ 液体は店売りだろうけど、空き瓶は何か詰めれそ  
うだな」

コツを掴み、ダメージを多少受けながらも黙々と狩っていく。半分  
くらい狩った時、不意に体が光に包まれた

「何だこれ？」

メニューを見てみると、レベルが上がりましたと表示されている。  
ステータスを表示すると、ポイントが三あるようだ

「三つしかないのかな？ よく分からないから、ヘルプを見てみよ  
う」

ステータスポイントについて

レベルが上がると自由に振り当てられるポイントが与えられます。  
ポイントが振り当てられるのは以下の通りです

攻撃、防御、魔法攻撃、命中、回避

ポイント一つ振り当てるとランダムで能力が上がります。その他の  
ステータスに関しては、レベルが上がるときに自動的に上昇します  
(ただし、幸運を除く)

なお、ポイントはレベルが上がるにつれて貰える量が増えていきます

「レベルが上がれば、貰える量が増えるんだね。とりあえず、攻撃  
と防御に振っておこうかな」

若干狩りが楽になった気がし、またクエストの数まで黙々と狩って

いく

「これで……ラスト！」

クエスト達成の数まで狩り終え、メニューから報告をして報酬を貰う

「1000ドニアとポジション十個、まあまあかな？ ちょっと疲れたし体力も少ないから、座って休もうかな。ポジションあるけど勿体無いし」

座ることによってHPやMP、SPも回復する。もちろん立っていても回復はするが、座る方が回復量が多い

「次は何やろうかなー」

## 第五話「回復中の出来事」

「HPも回復したしそろそろ街に戻ろうかな」

このゲームでは座ることによって、回復量が三十秒につき総HPの十分の一を回復するようになっていた

「それにしてもこのブルースライム、凄まじい……何かものすごく握りたくなるな」

苦笑いしながらブルースライムを見つめる。すると何かを感じ取ったのかどうかは分からないが、ブルースライムが近くを避けるようになった

「あらら……ゲームだね、これ？ こっちの気持ちなんて分かるわけないよね？」

などと、呟いていたら突然誰かの声が聞こえた

「だ、誰か助けてくださいー！」

声のした方向を振り向いて見ると、一人のプレイヤーがこちらに向かって走ってきた。どうしたのかと思っていたら、後ろにやたら大きいゴブリンが追いかけていた

まだ狩りには自信はなかったが、目の前に助けを求めている人がいる。それを無視することは出来ない

「離れて！」

大声で叫び、助けを求めている方に走りだし剣を強く握り、ゴブリンの背中に思いっきり斬りつける

「うわ！ 全然ダメージ与えれない！」

斬りつけたことでターゲットが、こちらに切り替わる。そして近くにいたため、すぐに反撃してきた。盾を構えて攻撃を受け止めたが、衝撃が強くてそのまま吹き飛ばされた

「痛っ……盾で防いだのに吹き飛ばすのかよ！」

吹き飛ばされることでも、多少のダメージがある  
例えばモンスターが投げた物でもダメージがあり、トラップや一定範囲内の段差（約2メートルから）などもある

一定間隔の間合いを取りつつ、助けを求めている人の方を見てみた  
装備や見た目から見ると、レベルが低めの僧侶だ。攻撃力が低いので、まだ弱い敵を狩らないといけないと思うけど、間違えて攻撃してしまったのかな

「厄介な敵だな……」

まだ慣れていないから、どうしても攻撃した後に隙が出来る。その時に反撃されてしまうが、盾で何とか防ぐことも出来た

しかし、この敵は盾で防いだとしても吹き飛ばされる。何度もやっ  
ていても効率が悪く、いずれかはこちらがやられる。下手をすれば  
ターゲットが切り替わり、あの僧侶に襲いかねない。どちらにしろ  
厄介な敵だ

どうしたらいいのやら……

## 第六話「厄介な敵」

先にモンスターが攻撃を仕掛けてきた。だが、ゴブリン系はスピードが遅いため、先制された場合は何とか避けることが出来る。しかしその分パワーがあるため、油断は出来ない

「とりあえず攻撃するしかないね……」

攻撃時の隙を狙い、攻撃を加える。しかしモンスターはすぐに振り向き、反撃をしようと僕にめがけて攻撃をする。盾で防ぐがやはり吹き飛ばされる

「くっ……これじゃ、きりが無いぞ！」

何とか立て直してモンスターの方を振り向くと、すぐ目の前までに迫っていた。自分の体力が半分まで減っていて、このままではやられてしまう。だが盾で防ぐことしか出来ない

「このままじゃ、こっちが倒される！」

盾で受けようと構えた時、後ろの方から声が聞こえた

「ホーリーバリア！」

体が一瞬光ったと思ったら、モンスターの攻撃を盾で防ぎきれた。それでも衝撃はそれなりの物だ

「っう……なるほどね」

ホーリーバリアは、物理防御力を一時的に上げる効果がある。そして、吹っ飛ばされるのは物理防御力が足りない証拠だ

しかし、ホーリーバリアのおかげで物理防御力が増えたので、吹き飛ばされることが無くなった

「これなら、多少は対等に戦える！」

体がでかく攻撃力がある分、スピードが遅いので盾で防いだり攻撃を避けたりして、確実にモンスターの体力を削っていく

「……そういえば、レベル上がった時にスキル覚えたな」

一旦モンスターと離れて、一定の間合いを取る。すぐにメニューを開きスキルの欄を見る

#### スキル設定

・真空切り 消費MP7

相手の前に空気の刃を作り、それを飛ばすことが出来る。距離が離れるほど当たる範囲は広がるが、威力はその分落ちる

・スキルの使い方

初めて発動する時は、フルネームで呼びます。それ以降は、名前だけで発動可能になります

発動条件は……叫ぶことで自動的に発動します？

「分かんないけど仕方ない、発動するしかない」

自動的にスキルを発動しやすい形になる。モンスターは隙が出来たと思ったのか、こちらに突撃してきた

「やばっ！ ええっと……」  
『全てを断ち切る風の刃よ、今ここに立

ち塞がる障害を断ち切れ！」

構えていた剣の全体に、風が包まれていく。そして、モンスターがすぐ目の前までに迫っている

「これで終わらせてやる！真空切り！」

剣を振った瞬間、包まれていた風が刃の形をしてモンスターに襲いかかる。モンスターが目の前まで迫っていたおかげで、距離はほぼ零距离みたいな物だ。その威力は絶大な物となる  
風の刃がモンスターに当たった瞬間、耐えようとしていたがそのまま吹き飛ばされた。そして光に包まれて消えていった

「うっ……疲れた。今の攻撃でHPが無くなったから、吹き飛ばされたのか」

ふとメニューを見てみるとアイテムを手に入れたみたいだ

#### アイテム取得

・ゴブリンの兜

収集物、ゴブリンがつけていた兜

・鉄の盾「」

装備盾、装備すると防御力が上がる。(能力ボーナス、HP+10  
物理防御+5)

「おっレア装備か！今の盾がボロボロだし、苦労した分助かるな  
レア装備とは低い確率で落とす装備に、ボーナスが上乗せされた物だ。その上乗せされるボーナスは装備により異なり、の数でも変わってくる。一般的にはの数が多ければ多いほど、上乗せされる

能力が増えて増加量も増える

「あれ？ 片付いたけど、さっきの人どこ行ったかな？」

辺りを見回して見たが追いかけられていた人が見つからない。戦いに集中しすぎて離れてしまったのか、はぐれてしまったのかのどっちかかな

とりあえず探しに行かないとね。お礼もしてないし

第七話「意外とドジっ子？」（前書き）

ご意見や感想お待ちしております

## 第七話「意外とドジっ子？」

探しに行くこと約一分、すぐに見つけることが出来た。ブルースライムに追われていた、しかも沢山の数に。

「あら……大丈夫ですか？ 今助けます！ 疾風切り！」

先程の戦いでレベルが上がったので、ブルースライムはほとんど一発で倒せるようになっていた。

「す、すみません」

「姿が見当たらないと思って探したら……どうしたの？」

「間違つて攻撃しちゃつて、それで逃げてたらコケて攻撃しちゃつての繰り返しで……」

「ははっ、なるほどね」

思わず苦笑いしてしまうくらい、結構天然な人だと思った。

何故、ゴブリンに追われていたのかは何となく想像はついたが、詳しく話を聞いてみることにした。

まだレベルが低いのでブルースライムを狩っていたが、そこにゴブリンがたまたま近くにいたそうだ。この近くにいるなら弱いと思い、攻撃してみたがダメージが全然与えられず、逆にダメージを受ける始末。一撃だけでHPを半分以上を受けたので、まずいと思い逃げていたら丁度僕がいたので、助けを求めたみたいだ

「まあ、無事で何よりだよ」

「すみません、私のためにわざわざ……」

ぺこりと謝るようにお辞儀をする僧侶さん。謝ることでもないと思

つたが、そこはすかさずフォローを入れておく。

「いやいや、こっちも助けられたからね。ホーリーバリアだったけ？ あれのおかげで、倒せたような物だからね」

「あつ、はい。とっさに出したんです。助けようとして」

「助かったな、初めてやるから、なかなか分らないんだけどね。やる前に公式のページ見ただけだし」

「私は遠くから見ていただけですよ……」

「大丈夫だって！ それなりの覚悟はしてたし、参加出来ないのは分かってたから。でも助けたかったからね」

「ありがとうございます！」

少しうつ向いていたが、こちらを見て満面の笑みでお礼を言われた。こちらにも助けたおかげで、良いものが見れたかなと苦笑いしてしまう。

「そろそろ街に戻ろうかと思うけど、そちらはどうするんですか？」

「私も街に戻りますよ。ポジションが切れてしまったので」

「そっか、もしよければ友達登録してもいい？」

「はい、是非喜んで！」

「まあ、そちらの用事が終わったら囁きして欲しいかな」

囁きとは、プレイヤーとプレイヤーのプライベート会話だ。メニューから会話を選んで名前を入力すれば、その人のみと会話ができる。他にも色々な種類がある。

・ノーマル会話

一定の範囲内の全員に会話が聞こえる。普段はこの設定になっている。

・パーティー会話

パーティーを組むと自動で切り替わる。会話はパーティーのみ離れ

ていても聞こえる。

・ギルド会話

ギルドメンバーのみの会話。

・プライベートグループ会話

プライベート会話の複数版で、最大十人まで会話ができる。

「どうして？」

「一人でやるのもあれだから、パーティー組もうかかってね。どうかな？」

「はい、参加させてください」

やっぱり、満足の笑みで返事を返してくれる。本当にもう眩しいです。

「んじゃ、友達登録……つと忘れてた。名前教えてくれない？」

「はい、私の名前はエルメスといます」

「エルメスさんね、こっちはルキアだよ」

「ルキアさんですね！ よろしくお願いします」

「こちらこそ」

お互いに軽い自己紹介をして友達登録をする。

そして、街に戻ることにした。

「また後で会おうね」

「分かりましたールキアさん」

装備について（前書き）

遅れてすみません

## 装備について

### 装備に関して

装備は多種多彩で、組み合わせは無限にあります。なお、職業によって装備の名前が変わりますので、合わせて書いてあります。

### 兜・帽子

帽子は魔法使いや聖職者などが装備をする。それ以外は兜を装備する。

兜は主に防御が上がり、帽子は魔法防御が上がる。

### 首

ネックレスやマフラーを装備する。

ネックレスは魔法防御を上げて、マフラーは防御を上げる。

### ローブ・重鎧・軽鎧

魔法使いや聖職者などはローブ、弓使いやアサシンなどは軽鎧、戦士などの一部の職業のみ重鎧を装備出来る。

主に防御と魔法防御を上げる。

### 盾

戦士や剣士など、片手剣を装備出来る職業なら誰でも装備出来る。

ただし、両手剣を装備する職業は装備出来ない。

一部の職業は小さい盾なら装備が可能。

主に防御が上がる。

### 手袋

誰でも装備が可能で、主に命中や器用さが上がる。

## 背中

主にコスプレ用とされているが、実用的な装備や能力が上がる装備もある。

装備によって上がる能力が変わる。

## 靴

誰でも装備が可能。

回避や走行スピードが多少上がる。

## アクセサリー

目、耳に装着可能なアイテム。主にコスプレ用だが、装備によっては命中や魔法防御が上がる

例、赤サングラス

赤色のサングラス。オシャレになるならこれ？ 命中も上がるようだ。

例、ダイヤイヤリング

ダイヤで作られたイヤリング。それほど高くは無い値段で取引されている。魔法防御も上がるらしい。

## 第八話「はじめての買い物」

「少しはお金が貯まったから、何か装備でも買おうかな？」

ブルースライムを倒したり、ゴブリンを倒して得たアイテムを売ったおかげで、8000ドニアは貯まった。

装備を見に行く為に防具店を見に行くことにした。

「いらつしゃいませ、初心者におすすめの装備を取り揃えています」  
品揃えは中々の物だ。

レベルが低い時には初心者価格らしく定価の80%〜90%で買える。

「ふーむ……目移りしちゃうな、こんなに数があると」

「装備可能なリスト用意しますか？」

「出来るの？」

「はい、出来ますよ」

「お願いします」

便利なシステムだ。ゲーム機や普通のオンラインゲームだと、一覧で装備可や不可などがすぐに分かるがこのゲームでは、装備に付いている札を見なければ分からない。  
やや面倒な所を省いてくれるのなら、積極的に使わないとな。

「貴方の装備可能な物は、こちらになります」

一枚の紙を渡される。レベルが低いからか、書かれている数は少ない。

盾はドロップで手に入れたので、手袋と軽鎧を買うことにした。

「それじゃあ……ランクル手袋とランクル軽鎧をお願いします」

「あいよ、二つで2700ドニアになるぜ」

「はい、ありがとうございます」

次に買うことになる装備の値段を確認して、店を後にした。

買うくらいならドロップ狙いでいった方が、まだいいかもしれない。運が良ければ能力にボーナスが付くし、店で買うより能力が僅かに高い可能性があるからだ。

次に向かったのは雑貨屋だ。薬や合成に必要な物、ポータル（専用の職業のみ使用化）などが売っている。

ゴブリンとの戦いで、ライフポーションを殆ど使ってしまったので、念のために買うことにした。

ライフポーション（小）の10個セットで500ドニア、10個普通に買うよりもお得なので、人気の商品らしい。

残りは4800ドニア残っていたが、今後の為に残しとくことにした。

死亡ペナルティーは経験値の減少（三割）、取得経験値の減少（一％〜十％まで。）がある。

ペナルティーは最初はゲーム内で一時間、時間がたつ前に死亡すると更に一時間増えるシステムだ。

「こっちは用事終わっちゃったけど、まだ囁きはないな」

一応、口約束ではあったがエルメスさんの囁きが来るまで、公園の木の下で寝転がって待つことにした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7282f/>

---

ラクダムオンライン

2010年10月10日04時11分発行